



家庭でできる8つの工夫と その効果



工 夫

効 果



「さわる・動かす」で 学ぶ

- 数量や空間の感覚が自然と身につく。
- 「数える」「比べる」が得意になり、算数の基礎力が育つ。
- 指先や手全体の動きも発達し、書字や道具操作にも良い影響が出る。



絵や写真で わかりやすく

- 予定が予測できることで安心感が高まり、痙攣や不安が減る。
- 「見てわかる」経験が積み重なると、徐々に言葉で理解する力につながる。
- 保護者の声かけも短くすみ、家庭の雰囲気が落ち着きやすい。



実物を使って 算数や言葉を学ぶ

- 「見て・動かして・聞いて」と複数の感覚で学ぶため、記憶に残りやすい。
- 言葉と行動が結びつき、生活での応用がしやすくなる。
- 勉強への苦手意識を持ちにくくなる。



ちょっと難しい 課題を用意

- 「考えたこと」と「現実」が違う体験から、柔軟に考える力が育つ。
- 達成したときに強い自己肯定感が得られる。
- 挑戦を「楽しい」と感じる習慣につながる。



気持ちを言葉にする サポート

- 他人の気持ちに気づききっかけになり、トラブルが減る。
- 自分の気持ちを表現しやすくなる。
- 家庭内での感情のやり取りが豊かになり、安心感が増す。



分ける・順番に並べる 練習

- 物事を整理する力や段取り力が身につく。
- 学校生活に必要な「順序だてて行動する力」が伸びる。
- 片付けがスムーズになり、家庭でのストレスも減る。



小さな会話で 考えを広げる

- 思い出を言葉にする練習になり、言語表現力が高まる。
- 自分の体験を整理する力が育つ。
- 親子の関係が深まり、安心して話せる環境が作られる。



一日の終わりに 「ふりかえり」

- 「仮説を立てて→試す→結果を確かめる」科学的思考の入口になる。
- 「なぜ？」という好奇心が高まる。
- 親子で一緒に発見する体験が増え、学びが楽しくなる。